

### 麦わら型採血キット

「麦わら型採血キット」が特許を取得しました。

この度、私たちまつなみリサーチパークは採血と検査が同時にできる、「採血・検査一体型デバイス」について10月30日付けで特許を取得しましたのでご報告いたします。本特許は、ドーム型の中に採血針を内蔵し、上から指で押すことによって血液が吸い上げられ、反応板に置いた特定の検査用紙と反応することで、その検査が陰性か陽性かを判断するものです。実際に目で見て判定するためドーム上面は透明な素材であること、としています。検査後は針が収納されるため、誰でも安全に採血することが可能です。これが実用化されれば、例えばインフルエンザの検査を自宅で行うことにより感染拡大を最小限に抑えることができますし、癌のマーカーによる一部の癌の早期発見や医療過疎地での診療にも役立てられると考えております。症状が表れてからでは無く、糖尿病の予防や合併症を防ぐために糖尿病について正しい知識を学ぶことが大切です。当院では、糖尿病教室を定期的に開催しており、今後も多くの方の参加をお待ちしております。



### クリスマス会

12月18日(金)託児所エンゼルにてクリスマス会を行いました。最初に0～2歳児の各クラスが発表を行い、年齢に応じた工夫を凝らし、みんなで楽しく参加することができました。会の途中には何処からか聞こえる鈴の音に子供たちはキョロキョロし、サンタさんを見つけると大歓声。サンタさんからプレゼントを受け取り、とても喜んでいました。又、毎年恒例となる、理事長から「玩具」、小児科・林医師から「手作りクッキー」のプレゼントがありました。今後も子供たちが楽しく、心身ともに成長できるような活動を取り入れていきたいと思っております。



### クリスマス音楽会

12月12日(土)岐阜県立岐阜高等学校音楽部によるクリスマスコンサートが松波総合病院南館一階エントランスにて開催されました。男女16名の生徒が、「サンタが町にやってくる♪」や「恋人がサンタクロース♪」など全13曲を熱唱しました。歌声はロビーに響き渡り、通り掛かる方も足を止め、多くの方が美しい歌声にしばし耳を傾けました。歌の途中には、生徒の方が心を込めて作成した素敵なクリスマスカードをロビーに集まった方々にプレゼントし、受け取った方々からは「ありがとう」という声が挙がりました。終わりにアンコールを希望され、最後に「青い山脈」をみんなで合唱しました。



## 「進化する循環器内科」

常に迅速により良い医療を患者様へ。松波総合病院の追及。

最善を  
追求する  
チーム医療

ハイブリッド手術室

循環器内科では狭心症、心筋梗塞(急性・陈旧性)、心臓弁膜症、心筋症などの心疾患とそれに伴う心不全、不整脈の診断、治療を主に行っております。その他に大動脈瘤、大動脈解離などの大動脈疾患、下肢閉塞性動脈硬化症などの末梢動脈疾患、深部静脈血栓症やそれに伴う肺動脈血栓症(いわゆるエコノミークラス症候群)なども診断・治療しています。急性心筋梗塞や不安定狭心症(これらを最近では急性冠症候群ACSと呼びます)では一刻も早い診断と治療が必要です。そのため24時間、365日いつでもカテーテル検査、治療を迅速に行える体制をとっています。また心臓血管外科との連携も緊密で急性冠症候群(ACS)での

緊急冠動脈バイパス手術、大動脈瘤の切迫破裂や大動脈解離に対する緊急手術もすぐに依頼が可能です。現在当循環器内科には常勤医8名が所属しており、外来、病棟診療、救急、集中治療、血管造影室とハイブリッド手術室を使用して心臓カテーテル検査、治療、下肢血管造影、治療などを協力して行っております。また2014年12月、2015年11月には当科の上野心臓疾患センター長が主催する「PICASSOライブデモンストレーション」を当院と名古屋の会場を中継して開催しました。こうした活動を通して医師はもとより看護師、放射線技師、臨床工学士、検査技師などのメディカルの技量、知識の向上を目指しています。

**ハイブリッド手術室のメリット**  
ハイブリッド手術室は、高性能な放射線透視装置と手術台を組み合わせた治療室で、従来はカテーテル室で施行していた各種血管内治療が、麻酔装置などを備えた清潔な手術室内でより安全に施行することが可能となります。これにより、内科的治療であるカテーテル治療と外科手術、両者を組み合わせた「ハイブリッド手術」ができるようになりました。



社会医療法人蘇西厚生会  
松波総合病院  
副院長 森田 則彦

**外来診療のご案内** (初診の方は紹介状をご持参ください)

**【NORTH WING(北館)】**  
 ■眼科 ■産婦人科 ■耳鼻咽喉科 ■泌尿器科 ■放射線科  
 ■健診科 ■脳神経外科 ■整形外科 ■神経内科  
 紹介状をお持ちの方 ■内科 ■循環器内科

**【SOUTH WING(南館)】**  
 ■ペインクリニック ■リハビリテーション科

**【まつなみ健康増進クリニック】**  
 ■外科 ■心臓血管外科 ■皮膚科 ■大腸肛門科  
 ■呼吸器内科 ■呼吸器外科 ■形成外科 ■腎臓内科  
 ■血液内科 ■リウマチ科  
 紹介状をお持ちでない方 ■内科 ■循環器内科 ■小児科

**駐車場・交通のご案内**

**交通のご案内**

- 新幹線 岐阜羽島駅 名鉄電車 竹鼻線15分 タクシー20分
- 名鉄 岐阜駅 名鉄電車 西笠松駅 徒歩10分
- 名鉄 名古屋駅 名鉄電車 急行25分
- 名鉄 笠松駅 徒歩15分
- タクシー5分

## 第29回PICASSO開催



**PICASSO**  
Physiology and Imaging Guided Coronary Angioplasty Association

### 「PICASSO」とは

本研究会は、血管内診断法の診断技術向上と普及・発展によって、心血管インターベンションの診断・治療の向上を図ることを目的とした研究会です。

### 最善の医療技術を追求めるチーム医療を

平成27年11月21日(土) 名古屋市の今池ガスビルで開催された第29回PICASSO(ピカソという循環器の学術研究会)において、当院の血管造影室より、カテーテル治療をライブで中継しました。ライブ手術中継とは実際に行われる治療を名古屋の会場にテレビ中継するものです。会場には中部三県の著名な医師たちが集まり、術者と議論をしながらその患者様にとってベストの治療は何かを検討します。患者様は一人ひとり違いますのでワンパターンの治療はうまく行かないことが多いのです。様々な困難や問題点を乗り越えて治療は成功するのです。ライブでは、刻々と変化する状況を多くの経験豊富な先生方と意見を交わしながら一緒に乗り越えて、より良い結果を得ることができます。そのため、参加していただく患者様には最高の結果が得られるという何よりのメリットがあります。また医師の立場からは自分たちの治療を公開して意見を求めることでより多くの医師から認められる、独善的でなくより良い治療技術を身につけることができます。また治療は医師だけではできません。多くのスタッフの協力が絶対に必要です。ライブを開催することで、医師だけでなく、カテーテル室で働く看護師や放射線科技師、



臨床工学士、臨床検査技師といったコメディカルも、参加した他院のコメディカルからの意見をもらいチームとして大きく成長することができます。もちろんライブで中継するわけですから、カテーテルチームに十分な実力が無ければできません。昨年は、一昨年に引き続いて2回目となる松波総合病院からの中継でした。5名の患者様に協力をいただき、スタッフ全員が落ち着いて治療にあたり無事に全例で成功することができました。手前味噌ではありますが、スタッフ一人ひとりの実力はさらにパワーアップしていました。これからどこに出しても恥ずかしくない治療をスタッフ全員で追及してまいります。どうか松波総合病院の循環器内科を宜しくお願いします。

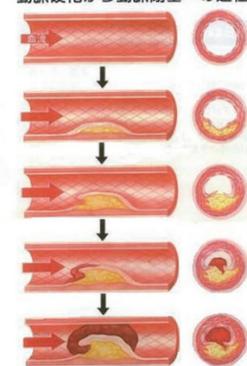


社会医療法人蘇西厚生会  
松波総合病院  
うえの かつみ  
心臓疾患センター長 上野 勝己

## 「心筋梗塞」という病気のことを知っていますか？

全身の臓器・細胞は主に動脈から酸素と栄養を供給され働いています。心臓の筋肉は、そのほとんどを冠動脈(冠状動脈)と呼ばれる動脈から供給され働いており、冠動脈が閉塞してしまうとその先に血液が行かなくなり心臓の筋肉が壊死してしまう、それが心筋梗塞という病気です。発症すれば死亡率も高く、助かったとしてもその後の生活に大きな支障をきたす場合があります。日本では心筋梗塞を含む虚血性心臓病が臓器別死因の第1位になりました。

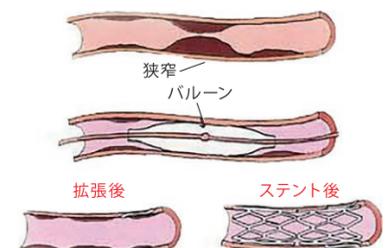
動脈硬化から動脈閉塞への過程



冠動脈が閉塞する原因は、動脈硬化で血管壁に粥腫(プラーク)と呼ばれる“脂の塊”のようなものができ、これが破綻し血の塊(血栓)ができて詰まるケースが多いですが、それ以外に冠動脈の“けいれん”=冠攣縮性狭心症によって詰まるケースや、比較的稀な原因で特発性冠動脈解離といって突然冠動脈壁に亀裂が入って閉塞するケースもあります。冠攣縮性狭心症は動脈硬化を起こしている冠動脈の方が起こりやすいという報告もあり、動脈硬化は非常に大きな問題です。糖尿病、高脂血症、肥満(メタボリック症候群)、高血圧、喫煙、家族歴など“冠危険因子”を多く持っておられる患者様ほど動脈硬化の危険が高くなり、食生活の欧米

化、運動不足、ストレスの増加など様々な要因により、年々心疾患死亡率は増加傾向にあります。

では、万が一心筋梗塞を起こすと、どのような症状が見られるのでしょうか？症状は患者様によって異なりますが、多く見られる症状としては『胸の辺りや喉の辺りが締め付けられるような感じ』や『胸や左肩、左腕の痛み』が15分以上持続したり、繰り返したりします。痛みは軽くても冷汗、顔面蒼白、悪心などの症状があったり、一過性に意識を失ったりした場合も注意が必要です。世界保健機関(WHO)の調査では、急性心筋梗塞で亡くなられた方の3分の2は病院到着前に死亡しており、最も重要なポイントはいかに早く治療が開始されるかです。疑わしい症状が見られた場合には直ちに病院へ向かうことをお勧めします。



心筋梗塞の治療には血栓を溶かすお薬での治療やバイパス手術もありますが、比較的短時間で詰まった血管を再開通させる方法としてカテーテル治療があります。腕や足の動脈からカテーテルと呼ばれる細い管をレントゲンで見ながら心臓の冠動脈が出ているところまで挿入し、細い針金(ガイドワイヤー)を閉塞した血管の中を通し、この針金伝いにバルーンと呼ばれる風船やステントと呼ばれる金属でできたメッシュ状の筒(ステント)を閉塞したところまで持っていき、拡張し血管を再開通させます。病院到着からカテーテル

治療で再開通させるまでを90分以内で行うことで、院内死亡率が半分以下に減少すると言われています。

しかし、最も重要なことは冠動脈の動脈硬化を予防し、閉塞する前に治療を行うことです。先ほどお話した糖尿病、高脂血症、肥満(メタボリック症候群)、高血圧、喫煙、家族歴など“冠危険因子”を持っておられる患者様は、定期的に健康診断を受け、食生活を中心とした生活習慣を見直し、おかしいなと思うような症状が見られた場合には早目に専門医の診察を受けるようにしましょう。冠動脈の検査には、カテーテルを直接心臓まで持っていき造影剤を入れて撮影する心臓カテーテル検査の他に、外来で静脈から造影剤を点滴し冠動脈の撮影を行う心臓CT検査、造影剤を使用せず冠動脈を撮影する心臓MRI検査、アイソトープを注射し心臓の筋肉への集積具合から血流の低下(虚血)を見る心筋シンチグラフィ検査、運動して前後の心電図変化を見る運動負荷心電図検査などがあり、患者様の症状や状態から、これらの検査の中で必要な検査を相談させていただきます。



社会医療法人蘇西厚生会  
松波総合病院  
くまだ ひろかず  
循環器内科部長 熊田 裕一